

# 平成21年度 施策評価シート

平成21年8月3日記入

## ◆総合計画における位置付け等

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31420
政策名(章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当局	環境経済局
基本施策名(節名)	第4節 商業・サービス業の振興	施策所管課	商業サービス業課
施策名	にぎわいのある商店街づくりの支援	課長名	荻野 隆

## 1 施策の目的

個性的で魅力的な商店街の形成を図る。

## 2 施策の概要

商店街の担い手の養成、商店街への加入促進など商店街の組織強化や地域住民と一体となって地域課題の解決を図る地域連携型事業を促進するなど、にぎわいのある商店街づくりを支援する。また、地域の消費者との交流事業や情報発信、空き店舗対策を促進するなど、商店街の活性化を支援する。

## 3 事業費

(単位:千円)

年度	平成19年度(決算)	平成20年度(決算)	増減の主な理由
事業費	87,673	93,371	
人件費	38,640	45,885	
市民一人あたりの事業費(単位:円)	124	132	

\*年間の人件費はH19、H20ともに805万円/年とし、人口は、70.6万人(H20.4.1現在)、71.0万人(H21.4.1現在)とした。

## 4 成果・活動指標

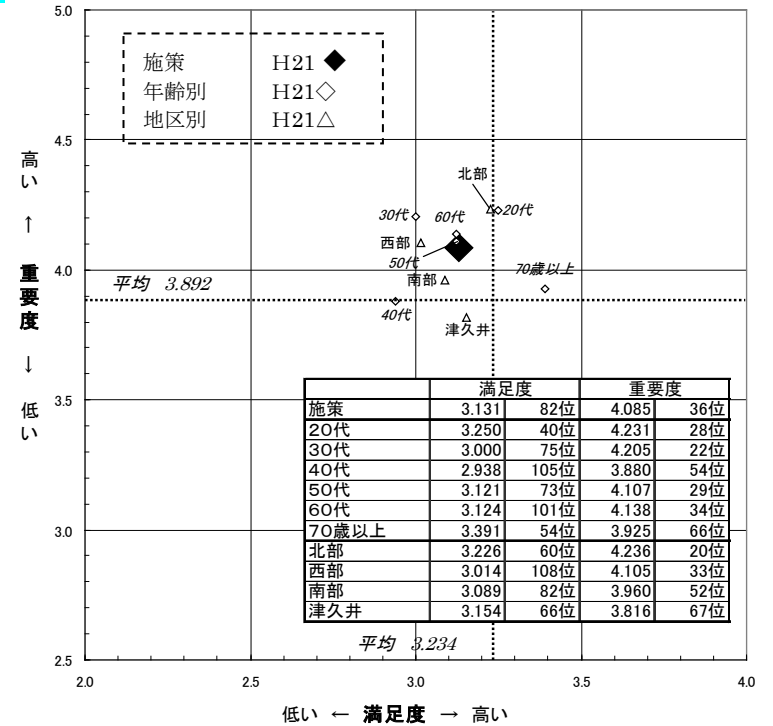
順位	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方(根拠)
1	指標1 「いつも活気がある街」と回答した割合	商業実態調査(来街者調査)で、平日に来街し、「いつも活気がある街」ですか。との質問に対して「はい」と回答した者の割合。	平成22年度に、過半数の者が、「いつも活気がある街」と回答することを目標として、順次設定した。
2	指標2 「にぎわい効果があった」と回答した事業率	大変賑わいがあったと商店街から報告のあったイベント事業数/商店街から報告のあったイベント事業数×100	最終年度において、平成17年の目標値58.1%より10%増を目標に掲げ、段階的に設定したもの
3	指標3 年間販売額の推移	商業統計調査結果に基づく年間販売額 H16商業統計調査結果に基づく小売業の年間販売額(旧4町を含む)	平成14年の年間販売額(6,339億円)を最終年度の目標として、順次設定したもの。
4	指標4 商店会加入店舗数	商店会への加入店舗数	商店会への加入店舗が、平成16年度は2582店舗平成17年度は、2500店と減少傾向にあるなか、加入促進活動を進め、毎年50店舗の加入を図るよう設定した
5	指標5 平日の通行量(歩行者、自転車、バイク、スクーター)	橋本、相模原(西門、中央地区を含む)、相模大野、淵野辺、上溝、小田急相模原、東林間、古淵、南橋本、相武台前の各駅周辺及び相原二本松周辺、若松周辺の通行量	平成15年度と平成19年度の人口比較では、2%旧相模原市の人口が増加(年:0.5%増)しており、今後数年も本市の人口は増傾向にあることから毎年0.5%の通行量増加を目標とした。

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標1 (単位:%)	H16	39.7	45.3	-	47.2	42.1	49.1		51.0	
総事業費・人員 (単位:千円・人)		99,668 5.4	87,673	4.8	93,371	5.7				
指標2 (単位:事業)	H17	55.9	62.1	68.3	64.1	66.7	66.1		68.1	
総事業費・人員 (単位:千円・人)		88,415 5.3	-	-	-	-				
指標3 (単位:億円)	H16	6,159	6,249	6,140	6,279	-	6,309		6,339	
総事業費・人員 (単位:千円・人)		-	-	-	-	-				
指標4 (単位:店舗)	H17	2,500	2,600	2,470	2,650	2,525	2,700		2,750	
総事業費・人員 (単位:千円・人)		-	-	-	-	-				
指標5 (単位:人、台)	H15	391,720	399,554	339,620	401,552	-	403,560		405,577	
総事業費・人員 (単位:千円・人)		137,348 7.0	-	-	-	-				

### 5 市民満足度調査結果(平成21年度実施分)

- この施策の満足度は3.131で全119施策の中で82番目。
- 重要度は4.085で36番目である。
- 改善要望度は0.209で26番目である。

にぎわいのある商店街づくりの支援



### 6 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H20評価点	前回(H20)評価結果との比較分析 または優先順位の最も高い指標以外で評価した理由
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	4 (2) 1	
効率性	最小の経費で最大限の効果を得られるよう、効率的に事業を実施している	4 (2) 1		
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 (2) 1	4 2 (1)	
合計		8		評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(9点以上) B(8点・7点・6点・5点) C(4点以下)
				1次評価 B

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

### 7 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	①商店街の担い手の高齢化や商店の経営不振による後継者不足 ②個店や商店街に加入する店舗の減少による商店会組織の弱体化
解決策	①商店街担い手講座の開催により、商店街の担い手の育成に努めるとともに、アドバイザーの活用や商店街・地域連携事業等により顧客を増やすことで、商店経営を安定化させ後継者を増加させる。 ②商店街にぎわいづくり支援事業やプレミアム付き相模原商品券などにより商店会への加入を促進する。

### 8 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

	2次評価 B
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

### 9 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価 B
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向